

株式会社 ファミリーマート 御中

タイ王国
安心・安全な学校作りのための子ども参加型防災学習

完了報告書(2015 年 5 月～2016 年 4 月)



2016 年 7 月
公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

1. 事業概要

事業名	安心・安全な学校作りのための子ども参加型防災学習
対象国・地域	タイ王国 5 地域（北部、北東部、中部、東部、南部）
事業期間	2015 年 5 月 1 日～2016 年 4 月 30 日
報告期間	2015 年 5 月 1 日～2016 年 4 月 30 日
予算	10,000,000 円
受益者	直接裨益者：生徒 619 人、教師 99 人、保護者 87 名 ¹ 間接裨益者：生徒 10,000 人(200 名×50 校) 教師(対象校 50 校の校長)50 名
事業目的	安心・安全な学校作りの枠組みにおける教員の防災能力強化と子ども主体の防災学習の促進を目指す

2. 活動進捗

本事業は、タイ教育省が学校での防災意識を向上させるために「安心・安全な学校づくり (Comprehensive School Safety: CSS)」のアプローチ²を奨励し、支援することを目的に実施されました。事業を通じて、「災害から安全な教育」を促進する働きかけを政策レベルから学校レベルまで実施し、「教育現場における災害リスクの削減」と、「学校や地域における子どもの安全」に対する生徒と教師の意識の向上に貢献しました。

【教員向けの活動】

活動 1. 教員研修パッケージの作成を通じ、教師が安心・安全な学校作りの枠組みを実践するための能力を強化する

教育省の基礎教育委員会 (Office of Basic Education Commission: OBEC) と連携し、セーブ・ザ・チルドレンを含む「安全な学校ネットワーク³」のメンバーによって学校教師向けの「安全な学校研修パッケージ」の開発を進めてきましたが、ネットワーク内での協議の結果、まずは OBEC

¹ 防災ワークショップ等、主に子ども向けの事業への参加者数の集計がなされ、当初想定していた裨益者数（生徒 250 名、教師 50 名）を上回りました。子ども向けの活動への参加校は、催し物により異なります。参加校数の内訳は収支報告欄をご参照ください。

² 教育における様々な危険からのリスクを削減するための国際的なアプローチ。「安心・安全な学校作りの 3 つの柱」が定められており、①安全な学習設備の構築、②学校における災害管理、③リスク削減・レジリエンス教育、と定義されています。当アプローチの目標は、1) 学校において教師や生徒を傷害から守ること、2) 考えられる危険や脅威に直面した際にも教育活動を継続するための計画をしておくこと、3) 教育分野の投資を確保すること、4) 教育を通じてリスク削減・レジリエンス（災害に対する強靱性）を強化すること、と提案されています。

³ セーブ・ザ・チルドレン、ワールドビジョン、プラン・インターナショナル、ユニセフ、国際赤十字赤新月社、Right to Play や他の国内 NGO、そしてタイ赤十字などによって構成されています。当ネットワークは、教育現場における防災関連事業を実施する国際・国内 NGO に対し、事業ツールや戦略、アイデアを提供していく役割を担っています。

が管轄する公立小学校で現在行われている防災教育の内容と実施状況、有効性を検証するためには現状調査が必要であるという結論に至り、本事業期間中に以下2つの調査を行いました。

1-1. タイの基礎教育分野の現状把握のための調査

2016年3月～4月にかけて、タイの基礎教育分野の現状を把握するための調査を行いました。この調査は、教育省基礎教育委員会(OBEC)、セーブ・ザ・チルドレン、そしてユニセフが共同で実施したもので、タイの基礎教育分野制度のしくみ、「安全な学校づくり」の推進活動の進捗、緊急下における教育対策、等について俯瞰的に把握することを目指したものです。

調査の結果はOBECに提供され、「安全な学校ネットワーク」関係団体にも共有されました。これらの情報は将来的な政策提言と決定、緊急支援要請内容の検討時、そして防災リスク削減・災害予防計画の策定に活用される予定です。

1-2. アユタヤ県 50 小学校にて「安全な学校」診断調査を実施

2016年4月、アユタヤ県の洪水被害の頻発する地域にある小学校50校を対象に、これらが「安全な学校」基準を満たしているかを診断する調査を行いました。調査は教育省基礎教育委員会(OBEC)と、OBECの地方出先機関にあたるアユタヤ県教育サービス地域事務所(Education Service Area Offices: ESAO)⁴の職員と共に実施されました。調査実施前には、対象校の校長とOBECの職員を交え、防災知識と「安心・安全な学校づくり」の枠組みについての事前説明を行いました。

「安心・安全な学校づくり」の枠組みは、①安全な学習環境の構築、②学校による災害管理、③リスク削減・レジリエンス(災害に対する強靱性)教育、の3つの柱から成り立っており、調査はこれらの項目に従って実施されました。

① 安全な学習環境の構築

災害時、地域の人々にとって学校の立地の安全性は大変重要な問題です。調査対象となったアユタヤ地域の学校の多くは本来、頻発する洪水と高温に対応するため伝統的に高床式の建物になっています。しかし今回の調査では、多くの学校は建設から10～20年以上が経過し、近年は床下のスペースが改修されて追加の教室や生徒の多目的スペース確保のために使用されているケースが散見され、防災面でリスクが高い状況になっていることが判明しました。

② 学校による災害管理

多くの学校では「安全・安心な学校づくり」の枠組みで奨励されている防災対策⁵を必要に応じて実施しているものの、それは防災対策というよりも、基本的な建物管理や一般的な安全

⁴ 教育サービス地域スタッフ(Education Service Area Offices: ESAO)の役割は、各県の教育機関が、国(教育省)の定める教育計画に沿った活動ができているかモニタリングし、予算措置をする地方教育行政機関です。

⁵ 具体的には、水道ポンプの修理や降水量の測定、通学グループ制度で子どもたちの安全を守る取り組み、災害の起こる危険性のある場所の特定等の取り組み等が該当します。

対策の一環として実施しているに過ぎず、本来の防災対策という目的で適切に実施されているわけではないということが判明しました。

③ リスク削減・レジリエンス教育

各学校長により、防災リスク削減に関する授業は既に正規の教育カリキュラムに取り入れられてはいるものの、授業時間数はまだ少ない状況であることが確認されました。そして、防災リスク削減教育を行うには、課外活動の時間を充てるのが最も望ましいと結論付けられました。

調査を通じて、各学校長や教員、そしてアユタヤ県教育サービス地域事務所の職員らは「安心・安全な学校」アプローチをより深く理解し、学校の安全レベルを診断できる能力を身に付けることができました。また、今回使用した調査ツールの今後に向けた改善策についても協議することができました。

今回実施されたこれら 2 つの調査は、学校教師向けの「安全な学校研修パッケージ」の内容を検討する上での重要な資料となります。当パッケージの開発は、本事業終了後もセーブ・ザ・チルドレン・タイ事務所と「安全な学校ネットワーク」のメンバー（ユニセフが中心）により、引き続き行われています。パッケージの完成は 2016 年の年末頃となる見通しです。

【子ども向けの活動】

活動 2. 安心・安全な学校作りのための枠組みをサポートする子ども参加型の防災学習

子どもたちが防災について学ぶことは、上述の「安心・安全な学校作りの枠組み」の柱の 1 つである、「③リスク削減・レジリエンス（災害に対する強靱性）を高める教育」推進のための重要な活動と位置付けられています。本事業では「防災エッセイコンテスト」、「防災ワークショップ」、「防災のための革新的なアイデアコンテスト」「アントン県防災サバイバル・キャンプ」の 4 つの活動を通じて子どもたちの防災学習を促進し、子どもたちと教師の防災知識を向上させました。

2-1. 「防災エッセイコンテスト」の実施

「防災エッセイコンテスト」は、「安全な学校ネットワーク」関係団体や内務省防災減災局、タイ赤十字、国際赤十字、そして教育省基礎教育委員会 (OBEC) の支援も受け、2015 年 9 月～12 月にかけて企画・実施されました。

結果、対象 5 地域の計 112 校より、313 作品（小学生部門 161 作品、中学生部門 152 作品）の応募がありました。2015 年 12 月 21 日には、セーブ・ザ・チルドレンの他、防災減災局、タイ赤十字、そしてタイ商工会議所大学 (UTCC) のタイ言語学部より各専門家を迎え、優秀作品を選考しました。選考の基準は 1) 主張内容、2) 主張の根拠となる説得力のある説明、3) 独創性、4) 言語表現と文章スタイル、5) エッセイの構成、6) 適切な文字数、の 6 点としました。また、セントラルファミリーマートのスタッフの皆様の協力を得て、「ファミリーマート特別賞」の作品を選

考して頂き、スタッフの皆様の事業への理解を深めて頂く機会とすることができました。

選ばれたエッセイの表彰式は、2016 年 2 月 6 日バンコク芸術文化センターにて「防災のための革新的なアイデア展示会」と併せて開催され、当事業に対し、多くの一般市民とメディア関係者らの関心を集めることができました。なお、選考結果は facebook ページの “IKidsupai”⁶ を通じて広く周知されました。

2-2. 「子どものための防災ワークショップ」の実施

2015 年 10 月 17～19 日に首都バンコクの他、特に洪水被害の多い 3 つの県（ウボン・ラチャタニ県、アントン県、アユタヤ県）の「安心・安全な学校ネットワーク」に属している中学校の生徒 62 名と教師 12 名を対象に、「子どものための防災ワークショップ」がバンコクにて開催されました。当日は、タイ赤十字、他国際 NGO、アジア防災センター等にも支援を頂きました。

ワークショップでは 7 つの講義と 14 の様々な学習アクティビティーが行われ、子どもたちの災害リスク削減に関する知識や救命処置・安全確保に関する知識を向上させました。参加した教師たちは、当キャンプ後にも各自の県でも個別に防災啓発教育を実施していく予定です。

表 1: 7 つの講義科目一覧

1. 災害、リスク、災害に対する脆弱さ、災害に対する対応能力に関する用語講座
2. 他者との共生と、他者の声に耳を傾けることについて
3. 視覚的思考方法について
4. 日本の津波、タイの洪水～災害からの教訓
5. 災害時の衛生問題
6. 革新的なアイデアの試作デザインと試験使用
7. 人生における成功のための方法

表 2: 14 の学習アクティビティーの内容一覧

1. 津波について
2. 地震について
3. 爆発災害について
4. 水への漏電モデル
5. 良きリーダーとなるには
6. 災害時になすべきこと&すべきでないこと
7. 応急処置の方法
8. CPR(心肺停止の蘇生救急)
9. ヘルメットと交通安全
10. 緊急時に身の回りで役に立つもの
11. 消火器の使い方
12. 災害犠牲者の搬送方法

⁶ IKidsupai とは “防災に対して、革新的なアイデアで備えをしている子どもたち” という意味です。セーブ・ザ・チルドレン・タイ事務所は 2014 年より、事業の進捗について当 facebook ページを活用し、広くタイの一般市民に公開しています。(https://www.facebook.com/IKidsupai/)

13. 防災バックの準備について
14. 災害時どのように身を守るか

さらにワークショップ後には、後日に企画されている「防災のための革新的なアイデア展示会」に向けて、革新的なアイデアを基にした防災グッズや救急救命ツールの作成を支援するためのセッションもありました。結果、「GIS（地理情報システム）を内蔵した地図付きピックアップチェアー」や「救援道具付きライフジャケット」等が考案されました。

ワークショップに参加した子どもたちからは「防災について楽しみながら多くを学ぶことができた」という報告を受け大変好評でした。また「安全な学校ネットワーク」関係者や教師からも、イベントがスムーズに運営されたことや、学ぶ内容が子どもたちのニーズと理解力に合った適正なものであったことが特に評価されました（このワークショップの様子は<https://www.facebook.com/IKidsupai/videos/778011342332300/>でもご報告させて頂いております）。

2-3. 「防災のための革新的なアイデア展示会」の実施

「防災のための革新的なアイデア展示会」は、2016年2月6日バンコク芸術文化センターにて、バンコク首都圏副知事の Aswin Kwanmuang 氏により開会が宣言されました。この展示会は、タイ内務省防災減災局、「安全な学校ネットワーク」関係者、アセアン防災センター等各関係団体からも支援を受け実現しました。展示会は、防災教育を通じて子どもたちの防災意識を高めると同時に、「安心な学校ネットワーク」の活動を広く市民に紹介することを目的としています。

当日の会場では、上記ワークショップに参加した生徒によって考案された防災グッズの優秀作品群の展示に加え、防災パネルディスカッション、防災エッセイ表彰式、そして2月7日と13～14日には防災グッズのデザイン会社の協力も得て、地震や火災の被災者を救助するための防災ツールの開発をテーマに「対話式子ども向け学習会」が実施され、計166名の子どもと保護者の参加を得ることができました。

2-4. アントン県における参加型防災学習会「子どものサバイバル・キャンプ」の実施

2015年10月に実施された「防災ワークショップ」の評判を受け、タイ中部のアントン県の Wattanon 小学校より、生徒向けの防災ワークショップ実施の依頼を受けました。そして2016年4月22～23日に当校と近隣の Watpicharn Sophon 小学校で「子どものサバイバル・キャンプ」と名付けた参加型防災学習会を4年生から6年生を対象に開催しました。学習内容は、生徒たち向けニーズ調査の結果と、教師、アセアン防災センター、「安全な学校ネットワーク」関係者、「子どもの安全と損傷予防リサーチセンター(Child Safety Promotion and Injury Prevention Research Centre: CSIP)」、バンコク首都圏庁火災救護部等との協議を踏まえてデザインされ、当日も実施支援を得ることができました。

当学習会は、1日目が教師向けの指導者育成研修、2日目が初日の研修を受けた教師の指

導・進行による生徒向け研修、という形で進められ、生徒たちは、1) 洪水のメカニズム、2) 干ばつのメカニズム、3) 避難バックのまとめ方、4) 水上救難法（短距離からの救護・長距離からの救護）、5) 交通事故から身を守る方法、6) 応急処置の方法、7) 消火活動の方法、について学びました。結果、アントン県 2 校（Wattanon School と Watpicharn Sophon School）の 78 名の生徒、25 名の教師、そして地元の教育政府機関スタッフらが防災知識を深めることができました。また、このキャンプの様子はメディアにも取り上げられました。

（この学習会の様子は <https://www.facebook.com/IKidsupai/videos/798906960242738/> でもご報告させて頂いております。）

3. 裨益者の声

Athitaya Promsit さん（通称：Earn さん）（15 歳、タイ北東部ウボン・ラチャタニ県）



友人に囲まれ防災ワークショップでの活動を楽しむ Earn さん（写真中央）

Athitaya Promsit さん、通称「Earn」さんは 15 歳で、Ampawan Wittaya 学校の 9 年生（中学 3 年生に該当）です。

Earn さんは 10 月に実施された「こどものための防災ワークショップ」に参加しました。Earn さんはワークショップに参加するまでは、洪水被害に遭ったことがなかったので、そもそも災害とは何なのか良く認識できていなかったそうです。よって、いざ洪水にあったときにどのように対応すべきか分からず、支援団体に頼るしか方法がないと思っていたといいます。

「防災ワークショップに参加するまでは、防災ワークショップの内容はほとんど理論の説明ばかりの講義形式によるものだと思っていました。でも実際に参加すると、興味深い活動ば

かりで楽しむことができました。そして友人もたくさんできました。

ワークショップで特に気に入ったのが、様々な活動のコーナーが出店のように『活動ステーション』として設置されていたことでした。特に“迷宮ゲーム”のコーナーが印象的でした。このゲームを通して、たとえ災害に遭っても、お互い助け合って工夫し合えば、苦難を克服することができるということを学びました。

私の父の実家はタイ中央部のノンタブリー県にありますが、以前洪水被害に遭ってしまいました。その時、父は必要そうなものをとにかくバケツに詰め込み、それを持って避難しなければならなかったそうです。もし洪水がまた起こるのであれば、今の私なら緊急避難のための防災バックを迅速に準備することができるでしょう。

私たち子どもたちは災害時に足手まといになるだけの存在と思わないでほしいのです。子どもだって、きちんとした防災知識を身に付ければ、災害時に大人たちを助けることができると信じています。」

4. 今後の展望

2015年から2016年にわたって実施された本事業により、「安心・安全な学校」の枠組みを促進するための学校関係者、教育と防災分野の政府・民間の専門機関、そして国際機関やNGOの連携体制はさらに強化されました。このことによって、将来に渡って防災分野における技術的支援が継続的に得られる展望が開け、また関連事業へ社会的な支援と理解も得られるようになっていきます。そしてその恩恵を享受するのは子どもたちなのです。

加えて、子どもを対象とした防災教育活動の実施を通じて、多くの参加者（生徒と教師）より、「子どもの安全と防災に関する知識、そして子どもが防災から守られる権利についての知識を深めることができた。」という嬉しい声が届けられています。そして、事業を通じて明らかになったのは、防災教育に関して教師と生徒たちは学校の枠組み以外の専門組織からの技術的な支援を強く希望しているということです。セーブ・ザ・チルドレン・タイはこれらの一連の活動で培った経験と現場からの声を将来の事業でも活用し、参加型の子ども向け防災学習をさらに一層推進していくことを希望しています。

本事業への温かいご支援に心から感謝を申し上げます。

5. 収支報告

項目	予算金額	支出金額
1-1. 安心・安全な学校作りのための教員研修パッケージの作成	258,045 円	240,200 円
2-1. 防災エッセイコンテスト(50 校参加)	325,244 円	339,170 円
2-2. 防災ワークショップ(8 ⁵ 校参加)	5,091,016 円	5,075,985 円
2-3. 防災アイデア展示会(23 校参加)	1,182,707 円	1,225,608 円
交通費、モニタリング費、諸経費	718,458 円	694,586 円
サポートスタッフ人件費	407,668 円	408,939 円
タイ事務所運営費	16,862 円	15,512 円
日本事務所運営費	2,000,000 円	2,000,000 円
合計	10,000,000 円	10,000,000 円

6. 活動写真

活動 1-1. アユタヤ県 50 小学校にて「安全な学校」診断調査を実施



(左) 県の教育サービス地域スタッフに「安心・安全な学校づくり」の枠組みと学校の安全性に関する診断ツールを説明する調査スタッフ (右) 対象校の教師と協議する調査メンバー



(左) アユタヤ県の学校で典型的にみられる木造高床式の校舎
(右) 本来高床式だった床下が改装されている学校

⁵ 教育省基礎教育委員会 (OBEC) によって選抜された 8 校

活動 1-2. タイの基礎教育分野の現状把握のための調査



(左) 教育省にて、教育省基礎教育委員会 (OBEC) とユニセフの職員らに調査手法を説明

(右) アセアン防災センターにて、「安全な学校ネットワーク」メンバーに対して、調査スタッフが調査結果を報告。今後の政府向けアドボカシー活動戦略が練られました

活動 2-2. 「子どものための防災ワークショップ」の実施



バンコクで開催されたワークショップでは、子どもたちが講義と体験型活動を通じて楽しみながら防災リスク軽減の方法を学びました



学んだ事を活かしつつ、「防災のための革新的なアイデア」を形にしようと奮闘する子どもたち。実用化できそうな作品は後日の展示会で広く一般市民に発表されました

活動 2-3. 「防災のための革新的なアイデア展示会」と「防災エッセイコンテスト(活動 2-1)」
表彰式の同時開催



(左)「防災のための革新的なアイデア展示会」開会式では、バンコク首都圏副知事が開会を宣言 (右) 内務省防災減災局職員や大学の防災専門家も交え「防災リスク軽減における子どもたちの役割について」をテーマにパネルディスカッション



(左)「防災エッセイコンテスト」の優秀作品の表彰式。ファミリーマートスタッフ代表 Pattakrit 氏も、表彰式に駆けつけて下さいました (右)防災のための革新的なアイデアの作品のひとつ「救命道具付きライフジャケット」



(左)防災のための革新的なアイデアの作品のひとつ「GIS(地理情報システム)を内蔵したピクニックチェア」 (右)「懐中電灯付きヘルメット」(※各作品の背景にある写真の生徒たちは考案した生徒)

活動 2-4. アントン県における参加型防災学習会「子どものサバイバル・キャンプ」の実施



(左) 1 日目、アントン県の 2 校の教師を対象に「子どものサバイバル・キャンプ」実施に向けて指導者研修を実施 (右) 2 日目は研修を受けた教師によって子どもたちに防災知識が伝えられました



(左) 防災リスク軽減について、体験型学習を楽しむ生徒たち (右) 消火訓練の様子

(以上)